

# 湖 頭

令和5年9月 文責：横田  
「全国学力・学習状況調査」まとめ編

4月に全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に、全国学力・学習状況調査が実施されました。本校の結果と分析をまとめましたので、保護者の皆様以下にの通り報告いたします。これらを踏まえて、より良い学習指導ができるよう、授業改善に努めてまいります。また、学力の向上には子供たちの学習習慣や生活習慣の確立も大きく関連しておりますので、ご家庭と学校とが一体となって取り組んでいくことが大切です。今後ともご理解、ご協力いただけますよう、お願い申し上げます。

## <全国学力・学習状況調査とは>

全国学力・学習状況調査は、小学校6年生と中学校3年生を対象に行われています。

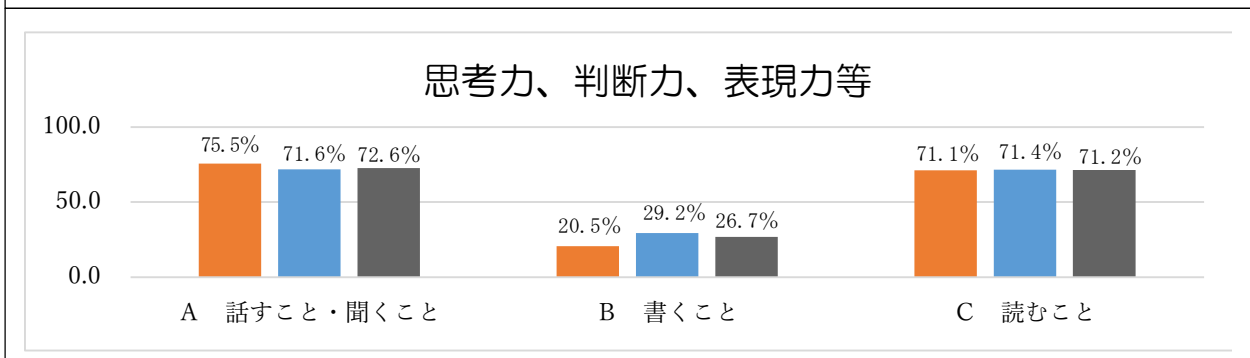
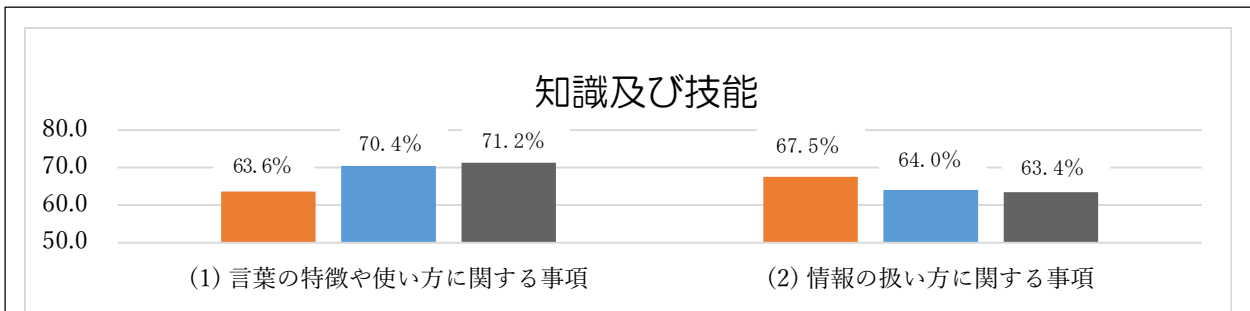
文部科学省や教育委員会が、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることが目的です。学校には、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善などに役立てることが求められています。

この調査は「教科に関する調査（国語、算数）」と、生活習慣や学習環境に関する「質問紙調査」で構成されています。「教科に関する調査」では、「知識・技能、思考力・判断力・表現力等は相互に関係しあいながら育成されるもの」という新しい学習指導要領の趣旨を踏まえ、基礎知識と活用力を一体的に問うように構成されています。

## <本校の調査結果から 成果と課題>

### 「国語」から 成果と課題

凡例 グラフ左から本校・静岡県・全国



上のグラフは、国語の領域ごとの正答率の比較を表しています。知識及び技能の「情報の扱い方に関する事項、思考力、判断力、表現力等の「話すこと、聞くこと」では本校は県、全国の平均を上回っています。一方で、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「書くこと」では県、全国の平均と比較して下回っています。

成果として、選択肢の多くが簡単なものではありましたが、「教科の言葉(用語)」が身につけてきていることが挙げられます。一方で課題として、記述式の問題であるため無答が多かったこと、解答の条件を満たしていない誤答が多かったことが挙げられます。また、初見の文章に触れる機会が少なかったり、「書く」ことに苦手意識があったりするため、解答しようという意欲がもてなかったり、資料を活用する機会が少なかったりとい

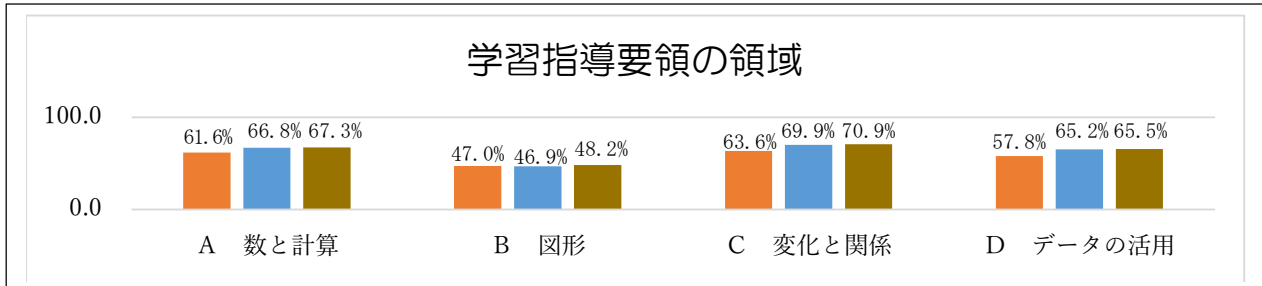
ったことが挙げられます。

今後の対策として学校では、同じ作者の作品を紹介したり、読書の時間に読み聞かせを行ったりするなど、様々な作品にふれる場を設けること、児童の「書きたい」という意欲を高める題材や教材、課題設定等を継続して研究していくこと、意図的に教科をまたいだ複数の資料を必要とするような授業づくりを行うことに取り組みながら、授業改善に取り組んでいきます。

また、子供の視点から、語彙力を高めるために気になった言葉を辞書やタブレットPCですぐに調べたり、活用したりするような学習の仕方を継続していくことが、国語力を育むための有効な手段だと考えられます。

## 「算数」から 成果と課題

凡例 グラフ左から本校・静岡県・全国



上のグラフは、数学の領域ごとの正答率の比較を表しています。「図形」の領域ではおおむね理解できていることが見られる半面、「数と式」、「変化と関係」、「データの活用」の領域では県平均、全国平均を若干下回っています。

成果として、簡単な計算問題での正答率は高く見られることから、基本的な計算能力は身に付いていると考えられます。一方で課題として、考えた理由を記述する問題については無答が多く見られました。これは、問題文が長いため、何を問われているのかが理解できず無答になっていることが考えられます。また、「なぜそう考えたか」を答えることに慣れていない傾向が見られること、問題文にある語句や問題の状況をじっくりと読み取り把握する時間（場）が少ないことも課題として考えられます。

今後の対策として学校では、低学年のうちから「なぜそう考えたのか」根拠を意図的に問い返していくようにすること、ただ読むだけでなく、絵や図にかくなど、発達段階に応じた場面把握を繰り返して行っていくような場を設定するなどして、授業改善に取り組んでいきます。

また、子供の視点から、授業等で身に付けた知識を活用(アウトプット)することを継続し、論理的な思考を基に課題に取り組んでいくことが、算数力を育むための有効な手段だと考えられます。

## 「生徒質問紙」から

### 富士市が目標として掲げた項目との比較

- ・自分で計画を立てて勉強している 市目標…65%以上 本校…77.8% (+12.3%)
- ・1日30分以上読書をしている 市目標…43%以上 本校…48.2% (+5.2%)

自分で計画を立てて勉強している子供の割合が多くなっています。しかし、一方で前期の学校評価アンケートの質問項目「自主勉強をすることができている」子供の割合は全校で62.2%となっており、これは、この生徒質問紙の対象が6年生のみを対象としていることから、高学年、特に6年生になると主体的な学習に取り組むことができるよう成長していると分析します。低学年のうちから少しずつ自分で計画を立てて勉強できることが望ましく、まずは計画的に宿題に取り組み、 $+\alpha$ の学習に取り組めるよう、ご家庭でもご支援いただけますようお願いいたします。

読書に関しても若干目標を上回っています。学校のカリキュラムの中では1日15分間の読書に取り組んだり、学校図書館の利用が多かったりしています。学校評価アンケートでも「すすんで読書をしている」子供の割合は76.5%と比較的高い数値を示しています。1冊の愛読書は人生を豊かに、幸せにしてくれるものです。素敵な本との出会いがあることを期待します。

### 本校のよいあらわれと課題

**よいあらわれ** いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか 95.1% (県97.3% 国96.9%)

**課題** 自分には、よいところがあると思いますか 81.4% (県85.1% 国83.5%)

将来の夢や目標を持っていますか 76.5% (県82.3% 国81.5%)

「自分にはよいところがある」=自己肯定感や、「夢や目標を持つ」という項目については、本校の教育課題の一つとなっております。やさしさとたくましさをもって教師や仲間と関わり合う中で、これらについて育ていけるよう、教育活動をより一層充実させていきます。

また、文部科学省の分析では、家庭の蔵書数は正答数と関連があるという結果が見られたようです。日々の少しずつの読書の習慣の積み重ねも、学力向上には有効であるようです。